

事務事業事後評価シート[平成26年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	生活環境部環境課		■担当係	新エネルギー係
■評価事業名称	再生可能エネルギー活用計画策定・推進事業			
■評価事業コード	030200 - 131	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	04 美しい環境と心を守り育てるまちづくり		
	■基本施策	01 地球環境保全の推進		
	■施策	03 地球温暖化防止対策の推進		
■事業の類型	05 ソフト事業(任意)	■政策・業務区分	政策	
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの			
■法令等の名称				
■関連計画の名称				
■事業の概要	地域に賦存する再生可能エネルギーを積極的に活用し、低炭素で災害に強いまちが実現していること。住民が地球環境や地域環境に負荷をかけない暮らし方を実践していること。低炭素社会の実現を目指し、地域に賦存する再生可能エネルギーの積極的な活用と省エネルギーの推進を両軸にした地球温暖化防止の方策を定め推進するために、再生可能エネルギー活用推進計画を策定するもの。			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成26年度事業計画	平成26年度事業量実績
01	再生可能エネルギー活用計画策定事業	市民	26年度は計画策定業務は無し。27年度の前期計画見直しに向けた情報収集。	
02	再生可能エネルギー活用計画推進事業	市民、企業、事業所	計画に基づく具体的プロジェクトの実施(黒工×黒岩プロジェクト、市内小水力発電可能性検討事業、きたかみライフスタイルデザインプロジェクト、きたかみ環境未来塾、環境展、バイオマスフェア、地域エネルギー事業、バイオマスエネルギー活用検討、メガソーラー収益活用のしくみ構築、再エネ低エネ情報収集・発信)。計画の進捗管理(成果報告、評価委員会組織化、評価改善、後期計画評価指標の検討)。	黒岩×黒工プロジェクト(キックオフワークショップ、黒岩フィールドワーク、小中学校出前授業、活動報告会)、イベント出展(近未来エネルギーフェア、農業祭)、水神発電所100年記念事業(親子で学ぼう自然エネルギー、パネル展)、ライフスタイルデザインプロジェクト(キックオフ講演会、ワークショップ、90歳ヒアリング、共同研究、シンポジウム参加)、市内小水力発電可能性検討事業(基礎調査、検討委員会3回、先進地視察、講演会)、再生可能エネルギー活用基金条例策定、視察対応(スマコミ、発電所、再エネ)17回、市HPでの情報

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	備考
直接事業費		103	7,213	309	
人件費		2,799	6,565	5,763	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト		2,902	13,778	6,072	

事務事業事後評価シート[平成26年度事業]

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	23年度	24年度	25年度	26年度	指標の説明
01	計画の策定		策定に向けた検討	策定		再生可能エネルギー活用のための総合的な指針となる計画の策定
02	ソフト事業数			4事業	7事業	計画推進のための、ソフト事業数

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■ 目標達成状況

A. 順調

B. 概ね順調

C. 遅れている

達成状況の分析

限られた人的資源の中で、市内のNPO・地域コミュニティ・企業・教育機関と連携を図りながら事業展開ができています。

問題点・課題等

専門性を求められる分野でありながら、市にとって経験値が少ないことから、人材育成とノウハウの蓄積が必要である。

1. 直接的な受益者の範囲

不特定多数に及ぶ

特定されるが多数に及ぶ

特定少数に限定される

2. 事業廃止の影響

大きな不利益やリスクが生じる

ある程度の不利益やリスクが生じる

不利益やリスクは小さい

3. 国・県・民間との競合関係の有無

類似の事業はない

類似の事業はあるが競合はない

類似の事業があり競合する

4. 事業へのニーズの変化

ニーズが高まっている

ニーズは変わらない

ニーズが低下している又は合致しない

5. 施策の改善需要度(市民意識調査)

順位が高い

順位が中程度

順位が低い

6. 施策の優先度(市民意識調査)

順位が高い

順位が中程度

順位が低い

7. 他市町村に比較しての優位性

先進的またはユニークな事業である

他と同程度の事業である

遅れている事業である

8. 実施主体の代替性

民間委託等の拡充は難しい

民間委託等の拡充が十分に可能

全部委託や実施主体の移行が可能

9. 経済性・効率性の向上

今以上の効率化や改善は難しい

効率化や改善を図ることは十分に可能

効率化や改善の余地が大きい

■ 今後の方向性

I. 拡充 IV. 民間活用・協働事業化

II. 継続 V. 廃止・休止

III. 縮小・要改善 VI. 完了

補足説明